

忘れたくない命、生かしたい命。
これからをともに生きていく、
人と動物のものがたり。

犬と猫と人間と2

動物たちの大震災



ふたたび、
いのちをめぐる
旅が始まる。

いのちは儂い。心はもろい。けれど、たくましい。
この作品が暗闇に射す一筋の光となり、
次の世代への道しるべとなってくれますように。

渡辺真子 (作家 / 「捨て犬を救う街」)

「どうせ死ぬはずだったんだから見殺しにしたっていいじゃないか？」。
身の丈のカメラアイが捉える、震災の中に投げ出された動物の姿、人の心。
動物達の目がじっとカメラを見つめる。その目の奥に宿った命の光。
そして、いつしか、どんなときも人であろうとするために闘う
「抵抗」の物語が浮かび上がってくる。心揺さぶられた。
ローポジションは前作に続き、粘り強く真摯な、必見の作品を生み出した。
観て、語りあって欲しい映画だ。

犬童一心 (映画監督)

『犬と猫と人間と』から4年 ふたたび、いのちをめぐる旅が始まります

東日本大震災では多くの人々、犬や猫などの動物たちが被災しました。しかし被災した動物の数は自治体でも把握しきれていません。今なお保護活動が行われていますが、私たちにはその現状を知ることさえ難しいのです。

「まだ新しい犬は飼えないけど、いつかまた…」津波で愛犬を失った夫婦が、喪失を受け止めてゆく長い道のりに寄り添いました。津波を生き延びた男性と野良猫が再会し、次第に家族となっていく姿など、いくつもの別れと出会いを見つめます。原発事故に翻弄される福島では、取り残された犬や猫を待っていた苦難が今も続き、飼主やボランティアの人々の複雑な思いが交錯します。残されたのは犬や猫だけではありません。被ばくした牛たちを生かすべきか否か、畜産農家とボランティアの人々が立場を越えて困難に立ち向かう姿を通して、いのちの意味を問うていきます。

僕らがまだ知らない、動物と人間のいま 未来につなぐため、いのちと向き合う

監督は、宮城県出身の映像作家・尖戸大裕。変わり果てたふるさとに戸惑い、カメラを向けることが出来ずにいた監督。しかし、懸命に生きる動物たちと彼らを救おうと奮闘する人々と出会い、600日に渡り正面からいのちと向き合っていきます。プロデュースを手掛けたのは、一人の猫好きのおばあさんの「不幸な犬猫を減らしたい」という思いから生まれ、09年に劇場公開され話題となった『犬と猫と人間と』の飯田基晴。本作はスクリーンを見つめる私たち自身がともに生きるいのちについて考え、未来へと繋いでいくための物語なのです。



www.inunekoningen2.com

木曾 明日への一步 映画祭 Vol.3 「犬と猫と人間と2」上映会

日時：11月19日(月) 開場：9時 上映：9時30分～11時30分

場所：上松町ひのきの里総合文化センター ホール 入場無料 [長野県 地域発元気づくり支援金事業]

■主催 NPO 法人上松町子ども未来会議 「学童保育 おひさまクラブ」 「給食宅配サービス 結」 「地域活動支援センター ソーレ」
■後援 上松町、上松町教育委員会、上松町社会福祉協議会、木曾保健福祉事務所、木曽村社会福祉協議会、木曾町社会福祉協議会
玉滝村社会福祉協議会、大桑村社会福祉協議会、南木曾町社会福祉協議会 (問合せ) おひさまクラブ ☎0264-52-3395

